

企業ニュース **くら寿司**

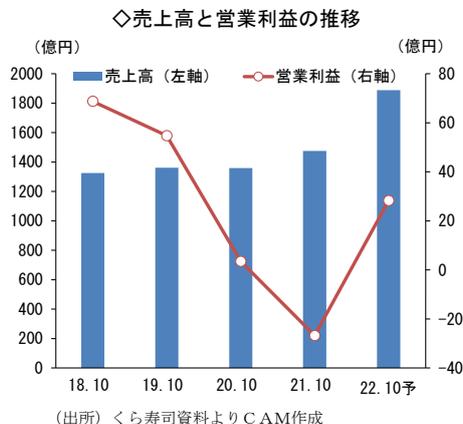
(東証1部: 2695) <https://www.kurasushi.co.jp/>

作成者: 高見澤晶子

将来的な「スマートくら寿司」の効果に注目

回転ずしチェーン「くら寿司」を展開。2021年10月末時点の店舗数は567店（くら寿司以外の国内業態5店、米国32店、台湾40店含む）。化学調味料、人工甘味料、合成着色料、人工保存料を一切使用しない商品を提供する。また、食べ終えた皿をテーブル備え付けの投入口に5皿入れるごとに1回ゲームに挑戦できる「ビックらポン!」をはじめ、エンターテインメント性のある仕組み作りも特長。

入店から退店まで顧客が従業員と接触しないシステム「スマートくら寿司」に積極投資し、2021年12月17日に全店への導入を完了。非接触への対応のほか、人材の最適配置への効果や、将来的には収集したデータを基にした効率的な商品開発・販促施策が期待できよう。



積極的な出店で過去最高益の更新を目指す

21. 10期の連結業績は、売上高が1,476億円、前期比9%増、営業利益が27億円の赤字、同30億円減（前期は4億円の黒字）。売上高は過去最高を更新、積極的な新規出店（日本30店、米国7店、台湾11店）が寄与した。また、アニメ「鬼滅の刃」とのコラボキャンペーンなど話題性のある販促や、Go To Eatキャンペーンの効果により、国内既存店売上高はコロナ禍前の前々期と同水準まで回復した。一方、出店やスマートくら寿司など成長投資を強化したため、営業利益は赤字となった。なお、経常利益と当期利益は時短協力金などの助成金の計上で増益となった。

22. 10期の通期会社計画は、売上高が1,889億円、前期比28%増、営業利益が28億円、同55億円増。今期も積極的な出店が増収に寄与する見込み（グループで50店、内訳は日本で30店以上、米国・台湾で各8～10店）。また、高単価の商品を投入するなど、客単価アップの施策にも期待したい。一方で営業利益計画は、スマートくら寿司の投資がなくなることを踏まえると、やや物足りない印象。会社は、出店費用がかさむこと、魚の価格上昇による原価率上昇、キャンペーンなど販促強化による費用増を見込んだとしている。

【株価動向・投資判断】

今後の客単価アップの戦略や、スマートくら寿司の中長期的な効果に注目したい。

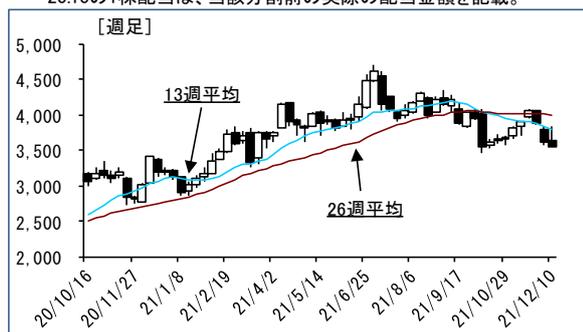
<2695 くら寿司 業績: 日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
20. 10	135,835 (▲0)	350 (▲94)	1,135 (▲81)	▲262 (—)	▲13.3	40.00
21. 10	147,592 (9)	▲2,678 (—)	3,174 (180)	1,901 (—)	48.0	20.00
22. 10 予	188,869 (28)	2,827 (—)	4,955 (56)	2,878 (51)	72.6	20.00

(注) 2021年5月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施。当該会計年度の期首に分割が行われたと仮定し、1株利益を算出。

20.10の1株配当は、当該分割前の実際の配当金額を記載。



[主要株価指標] (売買単位: 100株)	
株価 (2021/12/10)	3,560 円
年初来高値 (高値日)	4,715 円 (21/7/1)
同 安値 (安値日)	2,865 円 (21/1/12)
予想 P E R (22. 10 予)	49.0 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	1,216.4 円
P B R	2.93 倍
予想配当利回り	0.56 %
(1株当たり配当金年20.00円)	
R O E (21. 10)	4.1 %
発行済み株式数	4,140 万株